

自転車タクシー運行事業

自治体情報

愛媛県宇和島市

人口 / 85,791人

標準財政規模 / 2,644百万円

担当課 商工観光課

電話番号 直通 0895-49-7023

実施主体 宇和島地域雇用創造協議会

関連ホームページ <http://www.city.uwajima.ehime.jp/www/contents/1270706166277/index.html>

事業期間 平成20年度から平成23年度まで

関係施策分類 ①、④、⑤、⑥

予算関連データ

総事業費：86,000千円

名称	所管	金額(千円)
地域雇用創造実現事業	厚生労働省	86,000

施策のポイント

中心市街地と道の駅を中心に自転車タクシーを運行し、人の動線を確立することにより、商業・福祉・観光・雇用に成果を上げている。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

道の駅・観光拠点・商業地を結ぶ新たな交通機関として自転車タクシーの導入を行った。自動車が進入出来ない商店街での唯一の交通機関であり、廃止されたバス路線の補完を行うことにより、買い物弱者や高齢者が買い物等に便利になるほか、観光客の新たなツールとして利用を検討した。

本補助事業の性格として、事業本体では収益を上げず、他の事業所のメリットを増やし間接的に活性化に寄与することが求められたが、本自転車タクシーの運行はベストであった。

2. 取組の具体的内容

市内中心部に自転車タクシーの乗車場を設置し、平日は高齢者を中心に運行し、休日は観光客向けに運行している。

商店で買い物した場合に、無料で乗車券の配布制度があり、好評である。

スピードが出ないことを利点にして、花見や見学ツアーなどを計画している。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

福祉・雇用・環境・商業・観光のメリットを想定して導入した。

特に福祉車両としての利用が顕著で、病院や買い物に利用するほか、視覚障害者にとって自動車が通行出来ない場所まで運行できるメリットが大きい。

実際に乗客するか不安であったが、高齢者を中心に多くの客が利用する様になった。

4. 現在までの実績・成果

観光施設周回だけでなく、買い物客や通院者などの近距離の移動においても積極的に活用され、地域に無くしてはならない公共交通機関として確立している。

動線を作ることにより、道の駅等の交流拠点と中心市街地を結ぶことに寄与できた。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦勞した点とその対処法・解決策など

当初は地域に受け入れられず、理解者は少なかった。

タクシー事業者との住み分けが必要であった。

現在は、福祉車両としての位置づけにより平日の利用客が増加したほか、商店街で買い物をすれば無料乗車できる仕組みにより商店街が活性化した。

自転車の故障が発生しやすく、修理できる事業所が無く苦勞した。

6. 今後の課題と展開

速度が遅く時間がかかり、移動距離を考えるとタクシーと比較して仕事量は少ない。

そのため、運賃の値上げを含めて市民感情とのバランスを見ながら施策検討が必要となる。